

- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年
- 七 拘留科料ハ一年

〔第二〕附加刑ノ期滿免除ノ期限左ノ如シ(第六十條)

- 一、附加刑ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ルヲ以テ通則トス
レトモ我刑法ハ數多ノ特例ヲ設ケ唯附加ノ罰金ニ就テ
ノミ此通則ニ準據セリ
- 二、剝奪公權、停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス抑モ此
等附加刑ノ執行タル犯者ノ身體ヲ拘束スルヲ要セス夫
ノ生命刑、自由刑ノ如キハ犯者逃走シタルトキハ其刑ヲ

執行スルコトヲ得サルモ此等ノ附加刑ハ犯者ニシテ逃
走スルモ尙之ヲ執行スルコトヲ得ヘシ而シテ已ニ其刑
ヲ執行スルコトヲ得ルカ故ニ苟モ之ヲ執行スル以上ハ
期滿免除ヲ得ヘキ理由ナシ是我刑法ノ定ムル所ナリ然
レトモ此等ノ附加刑タル決シテ其執行ヲ逃ル、コト能
ハサルモノニアラス公權ヲ剝奪セラレタル者撰舉權ヲ
行ヒ又ハ教師學監ト爲リタルトキハ其執行ヲ免レタル
モノト云ハサルヲ得ス我刑法ノ規定ニ附テハ學者ノ議
論數多ナリト雖未ダ嘗テ採ルニ足ルモノナシ蓋シ主刑
ト共ニ期滿免除スヘキハ學理ノ當然ニシテ更ニ此特例
ヲ設クルノ理由アルヲ見サルナリ

三、沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得ルト定メタルハ若シ之ヲ主刑ト共ニ期滿免除スルトキハ輕小ノ刑ニシテ其期限ノ久シキニ涉ルノ弊ヲ匡正スルノ意ニ出テタルヘキモ是レ又更ニ其理由アルヲ見ス何トナレハ(第一)附加刑ノ輕小ナルハ獨リ沒收ニ至ラス(第二)違警罪ノ主刑ハ一年ニシテ期滿免除ヲ得ルモ其附加刑タル沒收ハ五年ノ久シキニ及フヘク(第三)此五年ノ期限ハ裁判確定ノ時ヨリ計算スヘキモノナルヘキモ無期又ハ長期ノ刑罰執行中五年ヲ經過スレハ附加ノ沒收ヲ行ハサルモノトスルハ不權衡ノ甚シキモノナリ

四、我刑法カ禁制物ノ沒收ハ期滿免除ヲ得スト定メタル

ハ無用ノ言ナリ何トナレハ法律ノ禁制スル物件ハ荷モ之ヲ所有スル以上ハ常ニ其犯罪ノ成立スルモノニシテ附加ノ沒收ハ勿論其主刑ト雖亦決シテ期滿免除ヲ得ヘキモノニアラサレハナリ

第三節 期限ノ起算點

期滿免除ハ刑ノ執行ヲ逃レタル日ヨリ起算シ若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリスルヲ以テ我刑法ノ規定トスレトモ(第六十一條)數多ノ例外ヲ認メサルヘカラサルニ至レリ即チ(第一)缺席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算シ(第二)罰金科料等ハ納完期限(裁判確定ノ日ヨリスルヲ正當トス)ノ經過シタル日ヨリ起算シ(第三)沒收ハ

オツベンホッフ
氏獨逸刑法第二
〇葉

ハルチル氏刑法論第三四五葉
グーバンクリル氏特典論
ビンツング氏刑法原理第一六七葉

裁判確定ノ日ヨリ起算シ(第四)死刑ハ死刑執行ノ命令アリタル日ヨリ起算ス

我刑法ニ於テハ期滿免除ノ經過ハ犯人捕ニ就キ又ハ最終ノ令狀ヲ出シタルニ依リ中斷セラレ更ニ其期限ノ起算點ヲ新ニシ就縛前又ハ令狀ヲ發シタル以前ノ時日ハ全ク消滅ス

第四章 恩典

第一節 總說

恩典ヲ設クルノ理由ハ左ノ三點ニ歸ス

(第一)恩典ハ立法上避ケ得ヘカラサル缺點ヲ補ヒ法律ト正義トノ牴觸ヲ除キ以テ法律ノ澁滯膠固ヲ醫ス

(第二)左ノ二原因アルトキハ法律ト正義トチシテ其公正ヲ得セシムルカ爲メ恩典ヲ行フコトヲ得

(イ)犯罪タル所爲ノ外犯人一般ノ行跡改良顯著ナル時

(ロ)國家社會ノ認メテ刑ヲ科スルノ必要ナキモノトスル時

(第三)犯人ニ對シ已ニ刑罰ノ幾分ヲ執行シタル後眞心改悟ノ狀アルトキハ又恩典ヲ行フコトヲ得

斯ク恩典ハ各個人ニ施ス所ノ私惠ニアラズ宜シク公義ニ基クヘキモノナルカ故ニ恩典ヲ受クル所ノ罪人ハ勿論被害者若クハ被害者ノ親族等ノ利害ハ恩典ヲ行フト否トノ妨ケトナルコトナカルヘシ故ニ(第一)中世ノ學者カ私事犯

増島評
僅々タル數言其
意深シ一言能ク
萬言ノ意ヲ盡ス

罪(即チ身體財産ニ對スル罪)ニ就テハ國家ハ決シテ恩典ヲ行ヒ得ヘキモノニアラストシ(第二)恩典ハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘシトスルノ説ハ誤レリ

恩典ニ左ノ四種アリ

- 一、棄權即チ裁判前公訴權ヲ棄却スルノ恩典ナレトモ我刑法ハ特ニ之ヲ一種ノ恩典トスルコトヲ認メス此棄權ハ已ニ大赦中ニ包含スルモノト定メタリ
- 二、特赦即チ裁判言渡後ニ於テ其刑ヲ全免シ又ハ減等スルモノヲ云フ
- 三、復權即チ一タヒ裁判ヲ以テ剝奪シタル能力ヲ復スルモノヲ云フ

四、大赦即チ裁判言渡ノ前後ヲ問ハス公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ放棄スル者ヲ云フ

第二節 大赦

大赦ハ主權ノ作用ニ依リ犯罪事件ニ對シ其公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ放棄スル者ナリ故ニ大赦ハ(第一)犯罪事件ニ對シ犯人ニ對スルコトナキヲ以テ主犯、從犯ヲ問ハス苟モ其犯罪事件ニ對シテ責任ヲ負フ者ハ盡ク此恩典ヲ受クヘシ

(第二)大赦ハ犯罪事件ヲ遺忘セシムルヲ以テ嘗テ犯罪ノ成立セシコトヲ認メス故ニ再犯加重ノ原因トナルコトナカ
ルヘク又ク當然復權ヲ得ヘキモノタルヘシ(第三)大赦ハ公訴權及ヒ刑罰執行權ヲ消滅セシムルカ故ニ裁判ノ前後ヲ

ベルトール氏佛
國刑法第二五章

問ハス既往將來ニ向テ共ニ其効力アリ但シ大赦ト雖私訴ノ權ニ至テハ之ヲ消滅スルニ足ラサルヘシ
 大赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破ルモノニアラス何トナレハ大赦ハ犯罪事件全體ヲ消滅シ其公訴ヲ併セテ消滅セシムヘキモノナルヲ以テ其裁判モ亦消滅シ大赦ヲ以テ其効力ヲ破ルヘキ裁判ノ營テ存在セルコトナキモノトスレハナリ
 大赦ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ行フモノニアラス大赦ハ即チ法律ニシテ革命ノ際ノ外現ニ之ヲ行フタルノ實例甚タ多カラスト雖英國ニ於テハ英國憲法ノ特性ヨリシテ往々之ヲ行フノ必要ヲ發生ス蓋シ英國君主ハ憲法上法律條例ヲ廢停スルノ權ナキヲ以テ危急存亡ノ秋設例ヘハ凶歲飢饉

マコーレー氏英
 國史第三卷

ノ甚シキ時ニ際シ自由輸出條例ヲ停止シ食料品ノ輸出ヲ禁止セサルヘカラサルカ如キコトアルトキハ已ムコトヲ得ス其處分ヲ當局ノ大臣ニ一任シ大臣ハ自己一身ノ責任ヲ以テ法律ヲ破リ斷然現行ノ條例ヲ停止シ越權專斷ノ罪ヲ待ツ然ル時ハ後日ニ至リ國會ハ其處分ノ情况ヲ考察シインデムニナリ、アクト大赦條例ヲ發シテ特ニ其罪ヲ免スヘキモノトスルヲ習慣トス

第三節 特赦

特赦ハ囚人ニ對シ確定シタル刑ノ全部若クハ一分ヲ免スル者ナリ故ニ特赦ハ(第一)人ニ就キ其刑ヲ免スルモノナルヲ以テ指名セラレタル特定ノ人ニ限リテ其効アルヘク(第

ペルトール氏佛
 國刑法第二十五章

汎論

第三篇

二) 特赦ハ唯刑ヲ免シ其罪ヲ消滅セシムルコトナキヲ以テ再犯加重ノ源因トナリ又タ當然復權ヲ得ヘキモノニアラス(第三) 特赦ハ裁判確定後ニ行フヘキモノナルヲ以テ將來ニ向テノミ其効力ヲ有シ既往ニ及フコトアルヘカラス。特赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破ルニ足ルヘキモノナルヤ否ニ就テハ學者議論未タ一定セサルカ如シ特赦ヲ以テ單ニ刑罰執行上ノ處分トスルノ學者ハ確定裁判ノ効力ヲ破ルモノニアラストス可ケレトモ此説タル能ク論理ニ適シタルモノトスルゴトヲ得サルニ似タリ何トナレハ設ヒ特赦ヲ以テ刑罰執行上ノ處分トスルモ裁判ニ於テ命令シタル刑罰ヲ變更スルモノタルヤ疑ヲ容レズ故ニ予ハ特赦ハ國君

ベルトール氏佛
國刑法第二六章
ビルクック氏復
權論

カ確定裁判ノ効力ヲ破リ其裁判ヲ變更シ特ニ其至當ト認ムル所ノ刑罰ヲ科スルモノトスルノ説ヲ贊成スル者ナリ。特赦ノ申立及ヒ之ヲ許否スル手續ハ治罪法ニ於テ之ヲ定ム

第四節 復權

特赦ニ依リ刑ヲ免スルモ犯者ノ一タヒ剝奪セラレタル公權ハ當然回復シ得ラルヘキモノニアラス何トナレハ特赦ハ犯者ノ現ニ受クル所ノ刑ヲ免スルモノナルモ公權ニ至リテハ一タヒ之ヲ剝奪セラレタルトキハ其刑ハ已ニ執行シ了リタルモノニシテ更ニ之ヲ免スヘキ刑罰ナキハ宛モ已ニ執行シタル死刑ヲ免スルコト能ハサルニ異ナラス故

ニ法律ハ復権ノ制ヲ設ケ以テ一タヒ剝奪シタル能力ヲ附與ス

復権ハ一タヒ剝奪シタル能力ヲ附與スルモノニシテ一タヒ剝奪シタル權利ヲ回復セシムルモノニアラス故ニ已ニ剝奪セラレタル勳章、年金、其他官吏教師タルノ權等ハ復権ヲ以テ更ニ之ヲ得有セシムルモノニアラス唯此等ノ權利ヲ得有スルコトヲ得ヘキ能力ヲ附與スルニ過キサルナリ我刑法ニ於テハ權利ト能力トノ別ヲ設ケスト雖第六十三條ニ「將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得」ト云ヘルハ即チ能力ヲ指シタル者ニ外ナラサルヘシ復権ノ効力ハ他ノ法律規則ニ及フヘキハ當然ナリ然レト

モ復権ハ公權ヲ得有スルノ能力ヲ附與スルモノニシテ刑法ニ定メタル公權外ナル他ノ權利ニ及フヘキモノニアラサルコトヲ注意セサルヘカラス設例ヘハ國字新聞ノ記者タル權利ハ刑法ニ定メタル公權外ノ權利タルヲ以テ復権ヲ以テ之ヲ回復スルコトヲ得ス

復権ヲ得ルノ條件及ヒ之ヲ許可スル方法ハ刑法第六十三條第六十四條及第六十五條ニ之ヲ定メ其手續ニ至リテハ治罪法第四百七十條以下ニ之ヲ定ム

刑法汎論 畢

參照書目

英米ニ於テハラツセルホワートンヌチーブンハリス佛國ニ於テハベルトルトレビユシアン
 オルトランフオースマンエリー獨逸ニ於テハベルテルビンジクオツペンホッフ、ヘルミユ子ル
 諸氏ヲ以テ刑法學ノ大家トスントモ今本書ニ復抄セル諸書ヲ併セテ最モ重要ナルモノヲ擧ク
 レハ左ノ如シ

- Alison, Criminal Law (アリソン氏刑法)
 Austin, Jurisprudence (オースチン氏法理學)
 Bar, zur Lehre vom Versuch und von der Theilnahme, 1859 (バー氏未遂犯及共犯論)
 Bar, das internationale Private und Strafrecht. (バー氏國際私法及刑法)
 Berner, Lehrbuch des Deutschen Strafrechtes. Leipzig 1881. (ベルネル氏刑法原論)
 Berner, Theilnahme. 1861 (ベルネル氏共犯論)
 Berner, Imputations Lehre. 1848 (ベルネル氏犯罪責任論)
 Berner, Wirkungskreis des Strafgesetzes. 1853 (ベルネル氏刑法管轄論)

- Blackstone, Commentaries 1832. (ブラックストーン氏英法註解)
 Buri, Einheit u. Mehrheit der Verbrechen. 1879 (ブリ氏一罪及數罪論)
 Billecoque, De la réhabilitation en matiere criminelle etc. 1868 (ユンコック氏刑事復權論)
 Binding, Grundriss zur Vorlesung über Gemeines Deutsches Strafrecht Leipzig 1884. (ユンクンク氏刑
 法原論)
 Bruck, Zurechnungsfähigkeit. 1875 (ブルック氏犯罪責任能力論)
 Bertauld, cours de Droit pénal. 1872 (ベトールン氏佛國刑法)
 Brooms Commentaries (ブローム氏英法註解)
 Chouven et Faustin-Hélie, Code pénal, (ノオースマンホリー氏佛國刑法論)
 Chop, über die Grenze zwischen Vorbereitung und Versuch eines Verbrechen, 1861 (シヤン氏犯罪豫備及
 未遂犯論)
 Deloume, Principes généraux de droit international en matiere criminelle, Paris 1882 (デルーム氏刑事萬
 國公法)

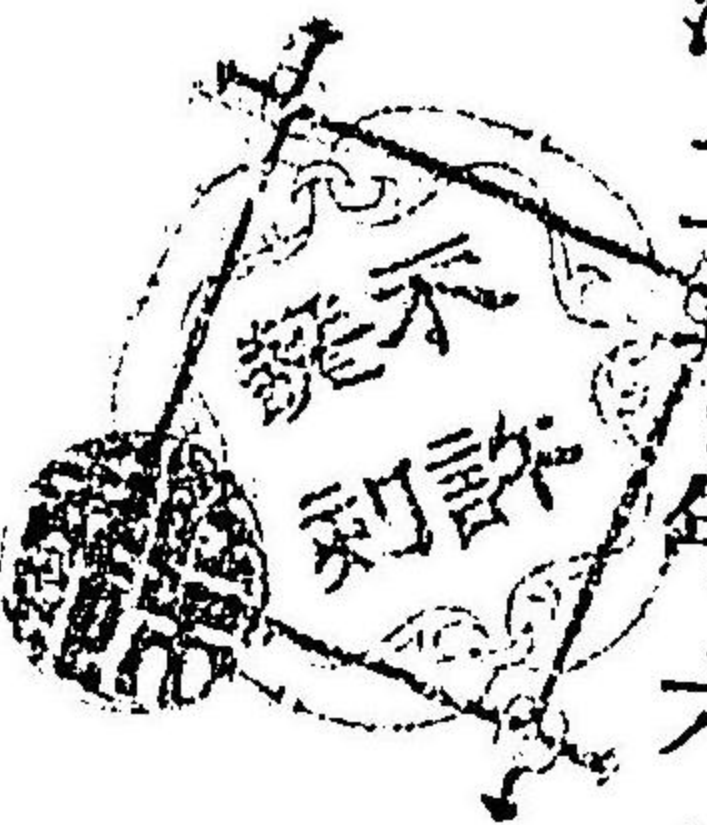
- Diendoné, Repetition de Droit eriminal, 1873 (ディンドンネー氏刑法治罪法要義)
- Frank, Philosophie du Droit pénal, Paris 1890. (フランク氏刑法哲學)
- Gesler, Begriff u. die Arten de Dolus, 1860 (ゲズルン氏犯罪論)
- Gouvancourt, Traité du droit de grace, Paris 1882 (グーヴンクートン氏恩赦論)
- Habermas, die ideale Konkurrenz, Stuttgart 1882 (ハーメルマス氏想像的數罪論)
- Halschner, Gem. Deutscher Straf. 1881 (ハルシュナー氏德國刑法)
- Holtendorf, Encyclopedia, 1882 (ホルテンドルフ氏法學叢書)
- Holland, Jurisprudence, Oxford 1882 (ホルランド氏法學叢書)
- Holmes, Common Law, Boston 1881 (ホーヤム氏法學叢書)
- Hertz, Versuch mit untauglichen Mitteln 1874 (ヘルツ氏手段不能ニ基ク不能犯罪論)
- Kent, Commentaries. (ケンツ氏法律叢書)
- List, Reichsstrafrecht, 1881 (リスト氏德國刑法)
- Marquet, De la prescription en matiere criminelle, Paris 1866 (マルケール氏刑事期間免除論)

- Mayne, Commentaries on the Indian Penal code, 1884 (マイン氏印度刑法叢書)
- Oelker, Einfluss des irrthums in Strafrecht, Kassel 1876. (オェルカー氏刑法叢書)
- Oliverona, Des causes de la recidre, Berlin 1873. (オリベロナ氏再犯原因論)
- Oppenhof, Strafgesetzbuch, Berlin 1885 (オッペンホフ氏法學叢書)
- Ortán, Eléments de droit pénal. 1875 (オルタン氏德國刑法)
- Rosenblatt, Straf-Konkurrenz, 1879 (ローザンブレン氏德國刑法叢書)
- Russel, Crimes & Misdemeanors. (ラッセル氏犯罪叢書)
- Seeger, über die ruckwirkende Kraft neuer Straf-gesetz. Tübingen 1862 (シーガー氏刑法致反効論)
- Sturm, die Kommissive delikt durch Unterlassung und die Omissive delikte, 1883 (シュム氏過失犯罪論)
- Terry. The First Principles of Law, Tokio 1878. (テリー氏法律叢書)
- Tribühn, Cours de droit eriminal, 1878 (トリブニェン氏刑法叢書)
- Siehart, Pflichtfälligkeit, Heiderberz 1881. (シハート氏刑法叢書)
- Starling, Commentaries on Indian eriminal code & procedure, London, 1877 (スターリントン氏印度刑法)

Stephens, Commentaries 1882. (スチブンス氏英法註解)
 Story, Conflict of Laws (ストーリー氏法律抵觸論)
 Wharton, Philosophy of Criminal Law. Philadelphia 1880. (ホイートン氏刑法哲學)
 Wharton, Criminal Law of the U. S., Philadelphia 1870. (ホイートン氏米國刑法)
 Woolsey, International Law, London 1879. (ウーリー氏國際法)

明治二十年五月廿四日版權免許
 明治二十一年六月廿五日出版

定價金壹圓六拾錢



著者兼
 出版人
 東京神田三崎町貳丁目八番地

江木衷

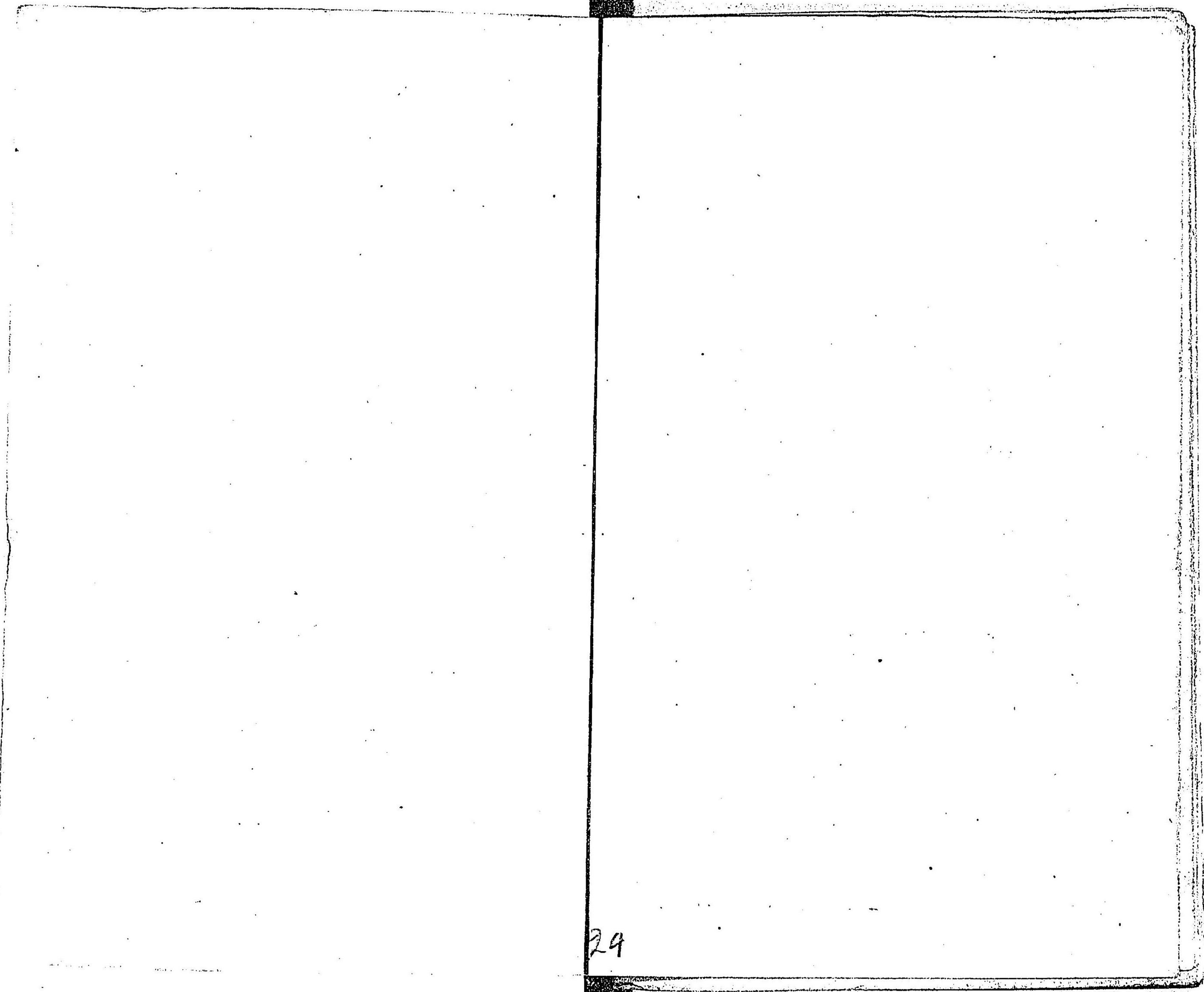
東京京橋區
 銀坐四丁目
 博聞社

發兌書肆

東京神田區
 一ツ橋通り町
 有斐閣

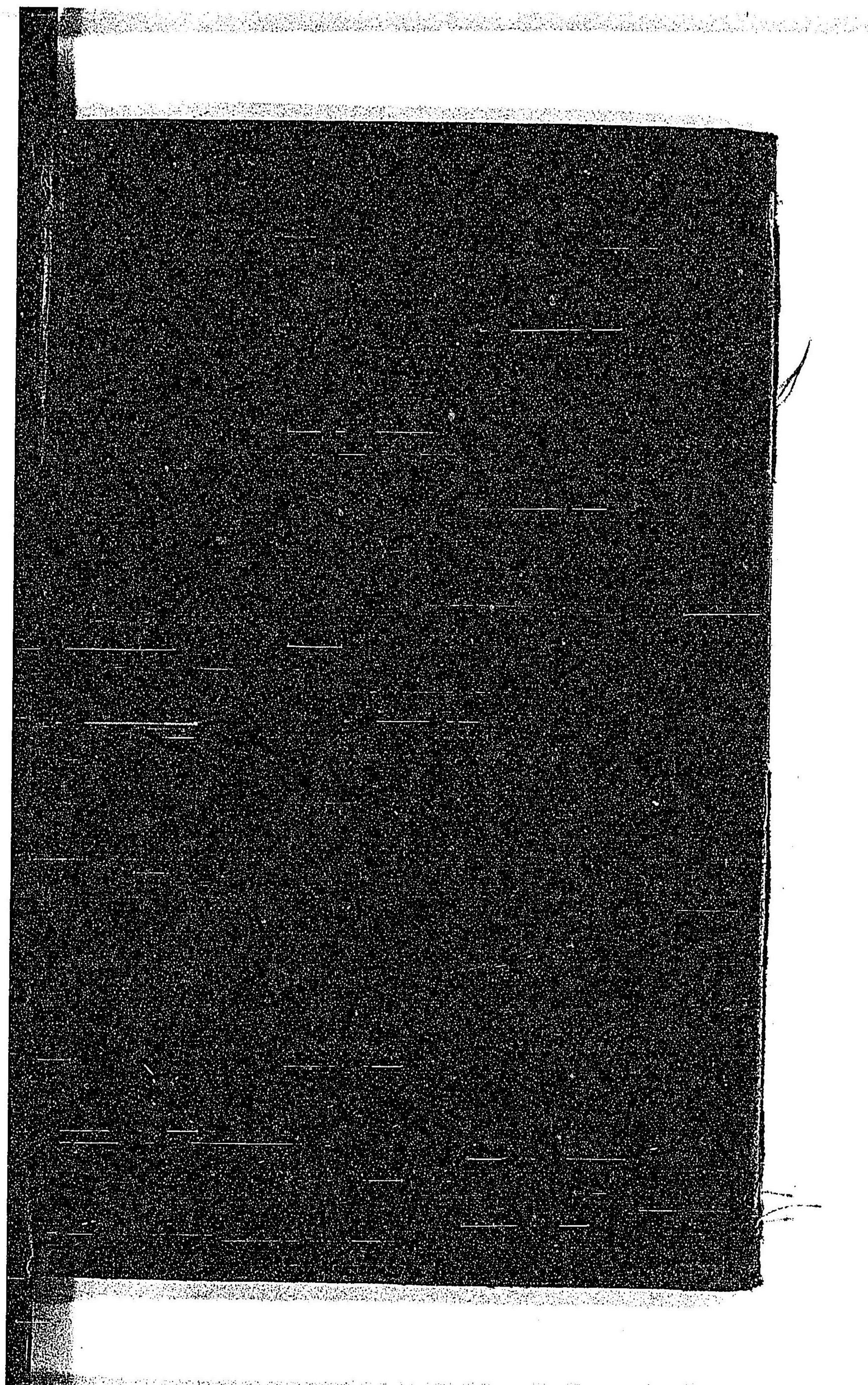
同

大賣捌
 東京日本橋區
 西河岸町
 須原鐵二
 同日本橋區
 濱町二丁目
 高崎修助



29

26
79





035928-000-5

26-79

刑法汎論 (現行)

江木 衷 / 著

M20

BBP-0526



